



平成28年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年5月11日

上場会社名 KeePer技研株式会社
コード番号 6036 URL <http://www.keepercoating.jp/corp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営企画本部長
四半期報告書提出予定日 平成28年5月12日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名

(氏名) 谷 好通
(氏名) 畠中 修
TEL 0562-45-5258
配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第3四半期の業績(平成27年7月1日～平成28年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第3四半期	4,870	15.9	690	16.4	667	16.8	420	28.1
27年6月期第3四半期	4,201	—	593	—	571	—	327	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年6月期第3四半期	61.80	60.25
27年6月期第3四半期	61.39	56.97

- (注) 当社は、平成26年6月期第3四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成27年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率の記載をしておりません。
- (注) 当社は、平成26年11月27日付で普通株式1株につき800株の割合で株式分割を行っております。また、平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。
- (注) 当社は、平成27年2月12日に株式会社東京証券取引所マザーズ市場に上場しているため、平成27年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は新規上場日から前第3四半期末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第3四半期	5,021	—	3,478	—	—	69.3
27年6月期	4,397	—	2,591	—	—	58.9

(参考) 自己資本 28年6月期第3四半期 3,478百万円 27年6月期 2,591百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	8.00	8.00
28年6月期	—	3.00	—	—	—
28年6月期(予想)	—	—	—	9.00	12.00

- (注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
- (注) 28年6月期第2四半期末配当金の内訳記念配当3円00銭
- (注) 当社は、平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため平成27年6月期の年間配当につきましては、当該株式分割を考慮すると1株当たり配当金は4円00銭となります。

3. 平成28年6月期の業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,775	17.0	849	31.2	811	30.0	474	32.8	69.58

- (注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
- (注) 当社は、平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、平成28年6月期の業績予想における1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年6月期3Q	7,230,100 株	27年6月期	6,544,000 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年6月期3Q	44 株	27年6月期	— 株
----------	------	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年6月期3Q	6,796,311 株	27年6月期3Q	5,341,380 株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は、平成26年11月27日付で普通株式1株につき800株の割合で株式分割を行っております。また、平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(平成27年7月1日から平成28年3月31日)におけるわが国の経済は、政府主導の経済対策や日本銀行の金融緩和策により、緩やかな回復基調で推移しているものの、資源価格の下落による新興国経済の減速や中国の成長率鈍化など不透明な状況が続きました。

当社ではこのような環境の中、ユーザーに提供されるキーパーコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerブランドのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えております。

毎年1月2月3月は、最繁忙期である年末の後であり最も閑散期の月であります。当四半期においては、来るべき4月以降の第二の繁忙期に備えて、キーパーコーティング施工者の全国的な技術力の向上を目的としたキーパー技術コンテスト(平成28年で第3回目)を開催しました。

技術コンテストは、日本全国から2,000名を超えるキーパー技術者が出場した54回の予選で380名に絞られ、14回の地方チャンピオン戦で45名に絞られて、最後の全国チャンピオン決定戦ではただ一人が全国チャンピオンの栄冠を得て、大変な盛り上がりとなりました。

また、キーパーLABO運営事業においては、毎年1月2月の閑散期に『1週間連続休暇制度』を実施し、最需要期である12月の疲れを癒し、また春以降の需要期に向けて、心身共にリフレッシュしました。

このような方針と行動が功を奏し、加えて広告宣伝活動と営業努力を行った結果、当第3四半期累計期間における売上高は48億70百万円(前年同期比15.9%増加)営業利益は6億90百万円(同16.4%増加)経常利益は6億67百万円(同16.8%増加)純利益は4億20百万円(同28.1%増加)となりました。

また、3月18日には東証マザーズから東証第一部への市場変更を、3月31日には名証第一部への新規上場をさせていただきます。この第3四半期は当社としては閑散期であり、かつ市場変更に伴う臨時的な費用も発生しており、厳しい収益環境ではありましたが、この期間を黒字で終えております。

①キーパー製品等関連事業

当事業における最も大きなシェアを占めている石油販売業界は、地球温暖化問題に因を発生した化石燃料の消費削減の大きな動きによって石油製品の販売量低下は着実に進んでおります。そのあおりを受けて、ガソリンスタンドの経営は石油製品以外の収益(俗に油外収益)を強化する必要が、ますます増大しております。その油外収益の最も現実的で効果的な商品としてKeePer商品がますます注目され、期待されております。

そのような環境の中、第3回目の開催となる技術力の向上を目的とした『キーパー技術コンテスト』を開催し、日本全国から2,000名を超えるキーパー技術者が出場し、大変な盛り上がりとなりました。

また、4月15日から展開を開始するテレビCMの案内を積極的に行い、その放映期間中にKeePer施工店の店頭で配布するチラシなどを企画し、春の需要期に向けての準備を積極的に行いました。

その結果、主要製品のひとつであるダイヤモンドキーパーケミカルとレジン2の出荷本数が、前年同期間比23.3%の伸びとなりました。そして、この事業の拡大の一つの指標である技術認定店「キーパープロショップ」は、当第3四半期末で4,888店舗(前年同期比+542店)に増加しております。

これらの結果、当セグメントの当第3四半期累計期間における売上高は32億10百万円(前年同期比14.7%増加)、セグメント利益は6億11百万円(同13.1%増加)となりました。ただし、セグメント間の内部売上高による利益が97百万円含まれております。

②キーパーLABO運営事業

1月は記録的な寒波があり、販売に影響が出ましたが、新店を含む全店で前年同月比13.3%増と健闘しました。また前年実績のある既存店前年実績でも1.9%増となりました。これは来店台数が下旬からの大寒波で伸び悩み、既存店比で前年とほぼ同じであり、平均単価がわずかに伸びた結果と考えております。個々の店舗では実績に良し悪しのばらつきがありますが、地方と立地によって寒波と雪の影響をどのような形でどれだけ受けたのかで実績が変わっております。

2月は、1月から一転、新店を含む全店で前年比23.7%増、前年実績のある既存店のみでの前年比は9.8%増と順調な結果となりました。

2月の最終週になって、気温の上昇、黄砂の到来など、お客様の洗車、コーティングマインドが上がって、全体の実績が上がり、特に新車に好んで施工されるダイヤモンドキーパーが、全店の前年比で40%増と大きく伸びまし

た。その結果、キーパーLABO運営事業の標準的なレベルである全41店の前年比で23.7%増、既存店のみでの前年比は9.8%増と順調な結果となりました。

1年のうち、最も閑散期の1月と2月のうち、初めて2月の収支を黒字で乗り越えて、春近くなった3月は、41店舗の売上高合計で2億円を超え、全店合計の前年比11.3%増で、前年実績のある既存店で前年比2.0%増です。

ダイヤモンドキーパーが全店舗に渡って増加傾向がありますが、クリスタルキーパー等が伸び悩み既存店実績は前年比をわずかに上回るにとどまりました。

新店では、仙台長町店、高針店、福岡春日店が好調な滑り出しです。少し立ち上がりに苦戦していたイオンタウン彦根店、芸濃店にショッピングモール特有の販売策に良い兆しははっきりしてきています。また、大垣店、東郷店が本格的に立ち上がってきています。

期間中、天候や特殊要因の影響を受けながらも、引き続き主力のコーティング商品は伸び、ダイヤモンドキーパーの施工台数は前年同期比で30.6%増、クリスタルキーパーは同6.7%増と確実に伸びております。これは、知名度のアップと専門店に対する信頼度のアップが大きいため、3月18日に実現した東証マザーズ市場から東証第一部への市場変更が、この効果により一層の寄与をするものと期待をしております。

一方、新店の出店については、4月に東京都板橋区に高島平店を開店し、6月に東京都三鷹市に三鷹店を、千葉県千葉市にちば古市場店の開店を予定しております。

これらの結果、当セグメントの当第3四半期累計期間における売上高は16億60百万円（前年同期比18.3%増加）、セグメント利益は1億76百万円（同16.8%増加）となりました。ただし、セグメント間の内部売上高による費用が97百万円含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ6億24百万円増加し、50億21百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1億32百万円増加、商品が2億1百万円増加、本社スタジオの土地・建物や新規出店に伴い有形固定資産が2億71百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ2億63百万円減少し、15億42百万円となりました。これは主として、未払金が1億25百万円減少、長期借入金が1億35百万円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ8億87百万円増加し、34億78百万円となりました。これは主として、資本金が2億77百万円増加、資本剰余金が2億42百万円増加、利益剰余金が3億73百万円増加したこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年6月期通期の業績予想につきましては、平成28年1月27日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,396,102	1,529,010
受取手形	166,659	137,161
売掛金	540,709	533,628
商品	314,790	516,222
貯蔵品	25,090	26,195
前払費用	92,810	92,290
繰延税金資産	28,151	35,573
その他	9,979	13,550
貸倒引当金	△1,401	△478
流動資産合計	2,572,892	2,883,154
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	806,453	904,444
構築物（純額）	76,345	83,692
機械及び装置（純額）	70,028	83,116
車両運搬具（純額）	43,202	48,444
工具、器具及び備品（純額）	58,547	65,797
土地	384,371	459,729
建設仮勘定	37,093	102,161
有形固定資産合計	1,476,041	1,747,387
無形固定資産		
のれん	3,252	2,276
ソフトウェア	14,712	27,817
その他	21,596	24,107
無形固定資産合計	39,561	54,201
投資その他の資産		
投資有価証券	38,988	16,440
長期前払費用	12,097	17,062
敷金及び保証金	103,377	142,923
建設協力金	45,388	43,499
保険積立金	14,315	13,907
繰延税金資産	94,465	102,990
その他	30	30
投資その他の資産合計	308,663	336,853
固定資産合計	1,824,266	2,138,441
資産合計	4,397,158	5,021,596

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	50,018	—
買掛金	142,357	166,001
1年内返済予定の長期借入金	246,856	186,034
未払金	275,959	150,182
未払法人税等	134,259	166,502
未払費用	95,691	79,828
賞与引当金	15,344	65,829
ポイント引当金	5,598	—
その他	25,325	15,793
流動負債合計	991,410	830,171
固定負債		
長期借入金	476,012	340,097
退職給付引当金	99,936	120,270
役員退職慰労引当金	197,967	209,493
資産除去債務	40,511	42,593
その他	43	43
固定負債合計	814,470	712,497
負債合計	1,805,881	1,542,668
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,448	1,281,510
資本剰余金	702,144	944,962
利益剰余金	878,364	1,251,444
自己株式	—	△62
株主資本合計	2,584,957	3,477,855
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,319	1,073
評価・換算差額等合計	6,319	1,073
純資産合計	2,591,276	3,478,928
負債純資産合計	4,397,158	5,021,596

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)
売上高	4,201,507	4,870,200
売上原価	1,305,117	1,512,004
売上総利益	2,896,389	3,358,196
販売費及び一般管理費	2,303,230	2,667,939
営業利益	593,158	690,256
営業外収益		
受取利息	375	613
受取配当金	767	773
為替差益	2,992	3,939
受取手数料	1,296	1,268
受取補償金	2,683	2,387
その他	827	1,718
営業外収益合計	8,942	10,699
営業外費用		
支払利息	7,764	4,941
デリバティブ評価損	3,924	934
株式公開費用	18,956	27,904
その他	16	14
営業外費用合計	30,661	33,793
経常利益	571,439	667,162
特別利益		
固定資産売却益	449	1,658
投資有価証券売却益	—	3,331
特別利益合計	449	4,989
特別損失		
固定資産除売却損	1,670	4,359
退職給付制度改定損	7,628	—
退職特別加算金	5,600	—
特別損失合計	14,898	4,359
税引前四半期純利益	556,990	667,792
法人税、住民税及び事業税	233,553	261,255
法人税等調整額	△4,449	△13,487
法人税等合計	229,103	247,767
四半期純利益	327,886	420,024

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成28年3月18日付で東京証券取引所市場第一部に市場変更し、平成28年3月17日を払込期日として、公募増資による払込を受け、新株式292,500株の発行を行い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ242,818千円増加しております。また、新株予約権の行使により、新株式393,600株の発行を行い、資本金が34,243千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期会計期間末において資本金が1,281,510千円、資本剰余金が944,962千円となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自平成26年7月1日至平成27年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,798,437	1,403,070	4,201,507
セグメント間の内部売上高又は振替高	157,331	—	157,331
計	2,955,769	1,403,070	4,358,839
セグメント利益	540,101	151,486	691,588

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	691,588
セグメント間取引消去	△98,429
四半期損益計算書の営業利益	593,158

(注) セグメント間の内部売上高157,331千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益540,101千円には、セグメント間の内部売上高による利益98,429千円を含んでおります。

当第3四半期累計期間(自平成27年7月1日至平成28年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,210,061	1,660,139	4,870,200
セグメント間の内部売上高又は振替高	170,059	—	170,059
計	3,380,120	1,660,139	5,040,260
セグメント利益	611,013	176,937	787,950

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	787,950
セグメント間取引消去	△97,693
四半期損益計算書の営業利益	690,256

(注) セグメント間の内部売上高170,059千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益611,013千円には、セグメント間の内部売上高による利益97,693千円を含んでおります。

(重要な後発事象)

当社は、株式会社東京証券取引所市場第一部への市場変更に関連して、平成28年2月24日開催の取締役会において、オーバーアロットメントによる売出しに伴う第三者割当による株式の発行を決議しておりました。当該決議に基づいて、当社は主幹事証券である東海東京証券株式会社を割当先とした第三者割当による株式の発行を行い、次のとおり平成28年4月13日に払込が完了いたしました。

第三者割当増資による新株式発行

(オーバーアロットメントによる売出しに関連して行う第三者割当増資)

①発行株式数	普通株式	75,000株
②割当価格	1株につき	1,660.30円
③割当価格の総額		124,522,500円
④増加する資本金及び 資本準備金に関する事項	増加する資本金1株につき 増加する資本準備金1株につき	830.15円 830.15円
⑤資本金組入額の総額		62,261,250円
⑥割当先及び割当株式数	東海東京証券株式会社	75,000株
⑦払込期日		平成28年4月13日
⑧資金使途	新規出店および営業所・トレーニングセンターの新設・改修に 充当する予定であります。	